

令和8年度

第8回総会

近未来コンクリート研究会

次 第

議事

第 1 号議案 令和 7 年度事業報告 承認の件

第 2 号議案 令和 7 年度収支決算書の承認の件

第 3 号議案 令和 8 年度協議会事業計画 承認の件

第 4 号議案 令和 8 年度予算書 承認の件

参考資料 活動記事

令和7年度事業報告

1. 協議会開催報告

- ・「コンクリートの施工性改善協議会（CⅡ協議会）」
- ・「RC構造物の延命化技術研究協議会（M協議会）」
- ・「脱炭素コンクリート技術研究協議会（S協議会）」

上記3つの協議会について2025年6月5日の総会で活動報告を行った。

CⅡ協議会・M協議会・S協議会は今後も継続して協議を行うこととなった。

| 協 議 会 | 概 要 | | |
|----------------------------|------------|------------|------------|
| コンクリートの施工性改善 協議会（CⅡ協議会） | 9/16 | 12/16 | 3/12 |
| RC構造物の延命化技術 研究協議会（M協議会） | 第1回 協議会 | 第2回 協議会 | 第3回 協議会 |
| 脱炭素コンクリート技術 研究協議会（S協議会） | | | |

令和7年度収支決算書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月3日

収入の部

| 款項 | 7年度予算額 | 7年度決算額 | 差引過・不足 | 摘要 |
|------------|-----------|-----------|----------|--------------------|
| 1. 会費 | 1,150,000 | 1,150,000 | 0 | |
| (1)個人会員会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 個人会員 19名 × 5,000円 |
| 会費収入 | 100,000 | 95,000 | △ 5,000 | |
| 前受年会費 | | 5,000 | | R8年度会費1名 |
| (2)団体会員会費 | 1,050,000 | 1,050,000 | 0 | 団体会員 21口 × 50,000円 |
| 会費収入 | 1,050,000 | 1,050,000 | 0 | |
| 2. 雑収入 | 192,298 | 220,030 | 27,732 | |
| (1)受取利息 | 2,500 | 7,454 | 4,954 | |
| (2)立替金入金 | 100,000 | 95,000 | △ 5,000 | 懇親会 19名 × 5,000円 |
| (3)所得預り金 | 39,798 | 27,288 | △ 12,510 | 源泉徴収分 |
| (4)書籍販売立替金 | 50,000 | 90,288 | 40,288 | 書籍:コンクリート診断士試験合格指南 |
| (5)その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 3. 繰越金 | 4,049,017 | 4,049,017 | | |
| 繰越金 | 4,049,017 | 4,049,017 | | |
| 合計 | 5,391,315 | 5,419,047 | 27,732 | |

支出の部

| 款項 | 7年度予算額 | 7年度決算額 | 差引過・不足 | 摘要 |
|--------------|-----------|-----------|----------|--------------------|
| 1. 事務局費 | 115,000 | 112,996 | 2,004 | |
| (1)電話通信費 | 50,000 | 46,275 | 3,725 | 電話代、ポケットwifi・切手代 |
| (2)事務局運営費 | 60,000 | 55,941 | 4,059 | 事務用品費、事務業務委託 |
| (3)雑費 | 5,000 | 10,780 | △ 5,780 | 振込手数料・発送費 |
| 2. 広告宣伝費 | 10,000 | 4,620 | 5,380 | |
| (1)印刷費 | 5,000 | 4,620 | 380 | 名刺 他 |
| (2)雑費 | 5,000 | 0 | 5,000 | |
| 3. 協議会・総会費 | 1,155,000 | 1,156,185 | △ 1,185 | |
| (1)講師料 | 350,000 | 267,288 | 82,712 | |
| (2)プログラム認定料 | 95,000 | 55,000 | 40,000 | |
| (3)印刷費 | 50,000 | 64,915 | △ 14,915 | 総会資料・協議会資料 |
| (4)総会懇親会 | 160,000 | 178,035 | △ 18,035 | 懇親会費(27名)・お茶代・名札代 |
| (5)その他 | 500,000 | 590,947 | △ 90,947 | 旅費交通費(講師)・お茶代他 |
| 4. 事業費 | 195,000 | 154,500 | 40,500 | |
| (1)事業費 | 50,000 | 0 | 50,000 | |
| (2)ホームページ保守料 | 145,000 | 154,500 | △ 9,500 | HP保守料・名刺管理ソフト使用料 |
| 5. 交際接待費 | 20,000 | 0 | 20,000 | |
| 6. 諸雑費 | 139,798 | 144,744 | △ 4,946 | |
| (1)立替金 | 50,000 | 90,288 | △ 40,288 | 書籍:コンクリート診断士試験合格指南 |
| (2)資料購入費 | 50,000 | 33,990 | 16,010 | 書籍:土木1、理科年表 |
| (3)その他 | 39,798 | 20,466 | 19,332 | 源泉徴収分所得預り金 |
| 7. 予備費 | 3,756,517 | 3,846,002 | | |
| 余剰金 | 3,756,517 | 3,846,002 | | |
| 合計 | 5,391,315 | 5,419,047 | 27,732 | |

令和8年度事業計画

協議会開催計画

成果物の報告会を令和8年6月4日に開催し、今後の協議会の活動内容や方針もその際に説明する。

| 協 議 会 | 概 要 | | | |
|----------------------------|------------------|---------|---------|--------|
| コンクリートの施工性改善 協議会（CⅡ協議会） | 総会 報告会 6/4 | 第1回 | 第2回 | 第3回 |
| 脱炭素コンクリート技術 研究協議会（S協議会） | | 8/31(月) | 12/1(火) | 3/2(火) |
| RC建造物の延命化技術 研究協議会（M協議会） | | | | |

※開催の際には日時などを改めて案内いたします。

令和8年度予算書(案)

自 令和 8年4月 1日
至 令和 9年3月31日

収入の部

| 款項 | 令和7年度決算額 | 令和 8年度予算額 | 摘要 |
|------------|-----------|-----------|--------------------------------------|
| 1. 会費 | 1,150,000 | 1,145,000 | |
| (1)個人会員会費 | 100,000 | 95,000 | 個人会員 18名 ×5,000円 (前年度に今年度会費支払い1名) |
| 会費収入 | 100,000 | 95,000 | |
| (2)団体会員会費 | 1,050,000 | 1,050,000 | 団体会員 21口 ×50,000円 |
| 会費収入 | 1,050,000 | 1,050,000 | |
| 2. 雑収入 | 220,030 | 234,728 | |
| (1)受取利息 | 7,454 | 7,500 | |
| (2)立替金入金 | 95,000 | 120,000 | 懇親会 24名 ×5,000円 源泉徴収分 |
| (3)所得預り金 | 27,288 | 27,228 | |
| (4)書籍販売立替金 | 90,288 | 80,000 | |
| | 0 | | |
| 3. 繰越金 | 4,049,017 | 3,846,002 | |
| 繰越金 | 4,049,017 | 3,846,002 | |
| 合計 | 5,419,047 | 5,225,730 | |

支出の部

| 款項 | 令和7年度決算額 | 令和 8年度予算額 | 摘要 |
|--------------|-----------|-----------|---|
| 1. 事務局費 | 112,996 | 122,000 | |
| (1)電話通信費 | 46,275 | 55,000 | ポケットWi-Fi通信費、切手代 事務用品費、事務業務委託 振込手数料、発送費 |
| (2)事務局運営費 | 55,941 | 60,000 | |
| (3)雑費 | 10,780 | 7,000 | |
| 2. 広告宣伝費 | 4,620 | 25,000 | |
| (1)印刷費 | 4,620 | 5,000 | 名刺・資料印刷他 |
| (2)雑費 | 0 | 20,000 | |
| 3. 協議会・総会費 | 1,156,185 | 877,973 | |
| (1)講師料 | 267,288 | 322,973 | 協議会・総会講師料 |
| (2)プログラム認定料 | 55,000 | 55,000 | |
| (3)印刷費 | 64,915 | 65,000 | 報告書印刷 |
| (4)総会懇親会 | 178,035 | 185,000 | 懇親会費28名・お茶代・名札代 |
| (5)その他 | 590,947 | 250,000 | 旅費交通費(講師)・飲食代他 |
| 4. 事業費 | 154,500 | 205,000 | |
| (1)事業費 | 0 | 50,000 | |
| (2)ホームページ保守料 | 154,500 | 155,000 | ホームページ保守料・名刺管理ソフト使用料 |
| 5. 交際接待費 | 0 | 20,000 | |
| 6. 諸雑費 | 144,744 | 152,228 | |
| (1)立替金 | 90,288 | 80,000 | コンクリートライブラリー 源泉徴収分所得預り金 |
| (2)資料購入費 | 33,990 | 45,000 | |
| (3)その他 | 20,466 | 27,228 | |
| 7. 予備費 | 3,846,002 | 3,823,529 | |
| 余剰金 | 3,846,002 | 3,823,529 | |
| 合計 | 5,419,047 | 5,225,730 | |



近未来コンクリート研究会（十河茂幸代表、写真）による第7回総会が5日、広島市中区で開かれた。総会では、各議案を慎重審議の末に全会一致で可決したほか、昨年度各3回開催した「コンクリートの施工改善技術（CⅡ）協議会」「RC構造物の延命化技術研究（M）協議会」「脱炭素コンクリート技術研究（S）協議会」の3協議会の活動内容を報告。今後

第7回総会開く 3協議会をさらに活性化 近未来コンクリート研究会



総会のもよう

も協議を継続する方針を申し合わせた。
総会には、会場参加とWEB参加を合わせて約40人が出席。議事では、2024年度事業報告や収支決算書、25年度事業計画案並びに収支予算案などを審議し、原案通り

に承認した。
広島工業大学の竹田宣典教授が主査を務めるCⅡ協議会では昨年度、「初期ひび割れの抑制技術研究（C）協議会」の協議終了に伴い、CⅡ協議会に移行。打継処理剤及び後添加型流動化剤などに関する検討を行っており、今後も参加者が話題提供を行う形で意見交換を継続するとして、コンクリートメンテナンス協会の江良和徳技術委員長を中心に進めているM協議会は、「小規模橋梁の簡易点検要領（案）第3版」を軸に第2版からの変更点や再調査・再補修、追跡調査結果の事例などを共有。今後ともコンクリート構造物の長寿命化・延命化に資する技術や情報、事例を幅広く調査、紹介するとともに、メンバーと双方の意見交換によって活動を活性化させる。

また、広島工業大学の坂本英輔教授が主査を担当するS協議会では、先進事例の話題提供や情報共有を図り、より現実的な脱炭素コンクリート技術の提言に向けた議論を展開。今年度はこれまでに得られた知見をもとに、提言や技術提案の取りまとめを進めるとともに、新たなテーマの検討も行っていく予定とした。
このほか、特別講演も催され、大林組技術研究所生産技術研究部首席技師の桜井邦昭氏が「近未来のコンクリート技術について」をテーマに今後広く活用が期待される技術やさらなる改善によって実用化を目指す技術を紹介。流動性の高いコンクリートや建設用3Dプリンタ、品質管理の省力化の動向について、私見も交えながら解説した。



コンクリート研究会 後添加型流動剤 で予備実験 25年度第1回の協議会開く

近未来コンクリート研究会(十河茂幸代表)による2025年度第1回目のテーマ別協議会が16日、広島市中区で開かれた。協議会には、実会場への出席と全国からのW

EB参加を含めて延べ約70人が参加。3協議会合わせて約6時間の長丁場となったが、コンクリートの延命化や脱炭素の研究、施工性改善に向けた議論をさらに深めた。

午前に行われた脱炭素コンクリート技術研究(S)協議会では、広島工業大学の坂本英輔教授が中心となり、コンクリート工学会年次大会2025「低炭素型ポラスコ

ンクリートの製造方法及び基礎特性に関する実験的研究」の内容が情報共有されたほか、広島県から相談があったという牡蠣殻粉末のコンクリート材料としての利用に関する可能性を議論。これまでにない事例で研究の価値があるとして、まずは予備実験を試みることにした。

また、午後から開かれた「コンクリートの施工性改善技術研究(CII)協議会」では、広島工業大学の竹田宣典教授が主査を務め、施工性改善に適した技術として、打ち継ぎ処理剤などに関する

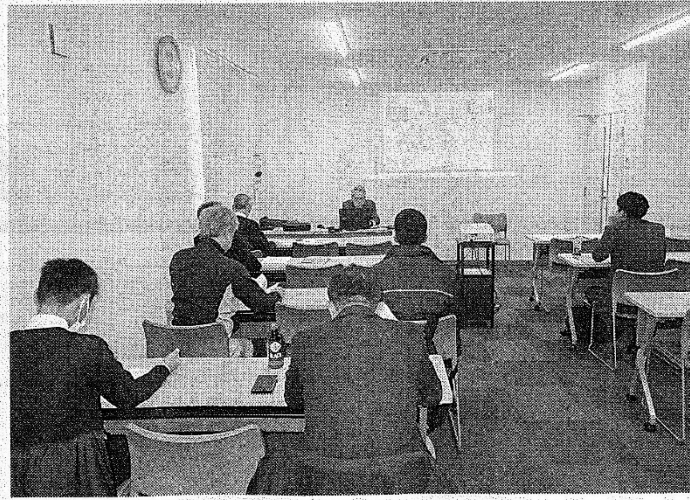
土木学会年次大会の論文調査結果が紹介され、協議会内でも議論。締固めの合理化を目的とした新技術も示された。さらに、後添加型の流動化剤増粘タイプによる施工性改善に関する話題では、予備実験を行うこととし、希望者が参加することになった。

また、コンクリートメンテナンス協会の江良和徳氏を中心に進めている「RC構造物の延命化技術研究(M)協議会」では、冒頭でNEXCO西日本エンジニアリング中国の山本雅行氏による博士論文「塩害環境下における既設コンクリート構造物の品質評価に関する基礎的研究」に関する講演が行われ、凍結防止剤由来の塩害などについて質疑応答。長崎県端島(軍艦島)での補修技術調査への参加計画なども紹介された。

次回協議会は、12月16日に開催する予定としている。

近未来コンクリート研究会 スランプ廃止、牡蠣殻活用など議論 25年度第2回協議会

近未来コンクリート研究会（十河茂幸代表）による2025年度第2回の協議会が16日、対面とWEBの併用で開催され、3つのテーマ別協議会に延べ約70人が参加。施工性改善や脱炭素、延命化に向けた活発な議論を展開するなど、盛会のうちに終了した。



した予備的な実験結果が示され、これが施工性改善に適うか否かを検討。スランプを増大させることで施工性は改善できる一方、空気量の調整など検討の余地が残ることから、今後広島工業大学で本実験を行い、適用性を検討することとなった。

また、沈下ひび割れの防止に対する少量の分離低減剤の後添加や、「国土交通省のスランプ規定廃止の提案」についても意見交換した。

午後からの「脱炭素コンクリート技術研究(S)協議会」(主査 坂本英輔 広島工業大学教授)では、カーボンフットプリント製品算定ガイドラインにおける高炉スラグへのCO₂排出量の配分などが紹介され、今後はスラグの使用もCO₂の計算に加える可能性が示唆されたほか、コンクリート材料としての牡蠣殻粉末の利用について、広島工大

での予備実験で得られた牡蠣殻の物性をホタテ貝殻と比較しながら議論。ポリプロピレン短繊維を用いたコンクリート再利用の基礎実験の一部紹介もあった。

「RC構造物の延命化技術研究(M)協議会」(主査 江良和徳 コンクリートメンテナンス協会専務理事)では、広島県土木協会の奈良原友貴氏が小規模橋梁の点検・診断・補修の効率化に関する取り組みについて話題を提供。合理的な点検・診断・補修によって安価なメンテナンスが可能となることが確認されたほか、福留開発の安達大輔氏は建設用3Dプリンタ導入による生産性向上効果に関する具体例を紹介し、今後実践的な取り組みを行っていくとした。

同協議会は、施工会社、コンサル、生コンなど分業化された業種が垣根を越えて議論することでコンクリートの全体最適を目指すもの。次回の協議会は26年3月12日に開かれる予定だ。

3協議会の議論さらに深化 6月4日に総会開催へ 近未来コンクリート研究会

近未来コンクリート研究会(十河茂幸代表)は12日、広島市内で2025年度第3回となる協議会を開いた。3つのテーマ別で開催している協議会には、実会場に加えて東京・大阪など遠方からのWEB参加など合計約70人が参加。コンクリート

の施工性、脱炭素延命化の各テーマにおいて活発な議論が展開された。十河代表は冒頭、大坂市北区で発生した鋼製管の隆起事故に触れ、「原因はおそらく摩擦力という当てにならない力を過信した計算ミス。再発防止のためにも本協議会のような場でしっかり勉強していくべきだ」と呼びかけた。

広島工業大学の竹田宣典教授を主査として開催された「コンクリートの施工性改善技術研究(CII)協議会」では、継続的に検討を行ってきた後添加型流動化剤増粘タイプによる施工改善実験において、スランプを増大させた高さ70cmの供試体で骨材の分離状況を調べた結果、材料分離に有意な差がないことを確認。これを受け、今後本実験

として現場施工を行う予定としたほか、沈下ひび割れの防止に少量の分離低減剤を後添加することや、残コン・戻りコンの削減の是非などについても意見交換した。



同大学の坂本英輔教授が主査を務める「脱炭素コンクリート技術研究(S)協議会」では、牡蠣殻粉末のコンクリート材料としての利用可能性についての予備的実験結果

を紹介し、さらに検討を進めることで一致。2025年度日本建築学会中国支部研究発表会で発表された論文2編についても情報共有した。

また、コンクリートメンテナンส์協会の江良和徳専務理事を中心に進めている「RC構造物の延命化技術(M)研究協議会」では、会員の坂田正宏氏(エイコー技術コンサルタント)が「建設部門の安全の工場のための方策」をテーマに発注者側の経験と労働安全コンサルタントの視点から説明したほか、コンクリートメンテナンส์協会が主催する維持管理フォーラム、協議会の今後の進め方についても議論した。次回の協議会は6月4日。総会とともに、各協議会の活動報告を行う予定としている。